

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101218		
法人名	愛和ホーム株式会社		
事業所名	グループホーム愛和		
所在地	大津市蓮池町13-10		
自己評価作成日	令和元年11月28日	評価結果市町村受理日	令和2年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432 株式会社平和堂和邇店2階
訪問調査日	令和2年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんがここに居て良かったと思って頂けるように、支援を心掛けています
 毎月第三土曜日には、隣の敷地でフリーマーケットと喫茶、ギターコンサートを開いており、出かけるのを楽しみにされています。
 犬を飼っており、利用者さんと接して頂き、アニマルセラピーにもなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地に立地する事業所は、運営理念を実践していることを示すように、利用者は明るくゆったりとした生活を送っている。事業所が掲げる理念は、重要事項説明書、パンフレットに記載するとともに、毎日の復唱や、介護日誌の余白に印刷する等で、折に触れ目にするようにしている。職員は利用者を介護支援することに働き甲斐を見つけて利用者に接し、管理者や法人代表との円滑なコミュニケーションにより信頼関係を構築し、家族の安心と信頼を得ている。在宅中は頻りに徘徊することが続いた困難事例に際し、利用開始に合わせて徘徊しなくなった実績がある。避難訓練の呼びかけに応じて近隣住民の参加がある。法人所有の建物を改装して寄せられた難人形を保管展示や、道路に面して長い池を作りメダカを飼育し、歩行される人に楽しんで貰っている。玄関ロビーに犬を飼ってアニマルセラピーを実践するなどの工夫がある。毎月多くの企画を立案し、利用者が隔たりなく参加して、毎日の生活に変化を持たせている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の復唱は毎日行なっている。職員は基本的には理解できており、理念の下実践を行なっている。毎日理念の復唱を義務感と感じる時もある。	利用者が「その人らしく暮らし」「利用者と家族の満足を得るように」「地域に密着した暮らしを目指す」ことを謳う理念を玄関、各ユニットに掲示し、職員は理解し共有している、介護に関する問題が見られた時は、その都度、理念に沿った対応かを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時には挨拶をしている。月1回のフリーマーケットを開催し利用者さんも出かけておられる。道路際にメダカを飼っており、メダカを通しての交流もある。	毎月隣の敷地で開催するフリーマーケットには地域の方の出店もある。喫茶やギターコンサートも併催し利用者も参加している。事業所主催行事や避難訓練への参加があり、法人が所有する隣接の建物内部を改装して雛人形を展示し、近隣住民の参観がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	フリーマーケットや、夏祭り等の行事に地域の沢山の皆さんが参加して下さっている。そこで、利用者さんの、生活者としてのありのままの姿と対応方法が伝えられている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームの様子や、実情を報告させて頂いている。地域の行事や、ホームの行事など報告しあい、参加への御協力を頂いている。	地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、利用者家族等を構成員として隔月に開催し、事業経過の報告や、防犯・防災対策、地域の行事等の情報交換をしている。併設の小規模多機能型居宅介護事業所と連続して開催し、議事録は一括保管している。	議事録は事業所ごとに分割し個別に保管し職員に回覧するとともに、運営推進会議を事業所の情報発信の手段の一つとして活用してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村や地域包括には分からないことがあれば相談ご意見を頂いている。	介護保険課とは、利用者の諸認定の更新や法規改正時の解釈等の指導を受けている。地域包括支援センターとは運営推進会議を通じ、事業所の状況やケアサービスの内容を報告・相談し、常に情報の共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる行為についての研修は行っている。ほぼできていると思うが、2階の為、やむを得ず、職員が少なくなる時間帯は施錠させてもらっている。	「身体拘束廃止委員会」の議論は、3ヶ月毎に運営推進会議やKR会議(管理者リーダー会議)に議題として取り上げ、話し合っている。本年2月に外部講師を招聘し、身体拘束に関する解釈が偏ることを防いでいる。夜勤勤務時間帯は、防犯上玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、	年に2回研修と評価の機会を持っている。利用者さんをありのままに受け入れ虐待は行われていないが、行き過ぎた言葉使いになっているかもしれない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強する機会は持っていないが、成年後見制度を利用されている方はある。ご本人の意思を大切に、尊厳を保持し、その人らしく暮らし続けていくことができるように新人研修では伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容をご家族に説明させて頂き、不明な点などあればその都度お答えさせて頂いて、契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、ご意見箱を設置しているが意見は入らない。敬老会の後、ご家族様よりご意見を頂戴している。また、気軽に話して頂けるよう来所時には様子を伝えご意見をお聞きしている。	毎年開催する敬老会を家族との懇親の場とし、参加する家族から意向や意見を聴取している。机に伏して眠る利用者の額を柔らかく受け止めるようなクッションを家族が準備し、採用して喜ばれている。「愛和通信」を毎月発行し、生活状況を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人面接を行い、各々意見を聞いている。又、気軽に意見を言える雰囲気があり、直接代表者、管理者に提案する職員もいる。	1～2ヶ月毎に全体会議を開催している。月2回開催のKR会議には法人代表も参加し、職員は自由に意見や提案をしている。法人は迅速にそれに対応している。利用者がふらつく状態を見た職員が、洗面台の上に手すりを提案、すぐ設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日ホームの様子を見て回っている、職員の意見は気軽に聞いている。日常的には、把握できていない部分もあり、半年に1度の面談時に各自の思いを聞かせて頂き、その思いが実現できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修を行い、適性をを見ながら配属、現場でのOJT研修を行っている。内部研修には全員研修報告を出して頂き、反復と能力アップに努めている。外部への研修はあまり受講出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の研修は遠方の為、参加しにくい状況。近隣のグループホームより看取りについて教えて欲しいと来られたこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	帰宅願望や食事の訴え、物がなくなった訴え等お聞きしながら一緒に解決できるものは解決している。訴えに対し、希望が持てる答え方をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族さんは何に困っておられるか確認している。ご家族さんのご利用者さんに対する思いを汲みながら、ホームへ足を運びやすい声掛けを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入所迄の生活環境、状態をお聞きし、ご本人さんにとって安心できる環境を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物の干し、たたみ、調理の食材切り、盛り付け、食前、食後のテーブル拭き、お皿洗いなど出来る事を一緒にして下さっている。日本の言葉がわからない時、利用者さんに教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事時にご家族が訪問、食事介助、排泄介助をして下さっている。たまに一緒にご自宅にも帰られる。お墓詣り、法事等にも参加されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族さんとお祝いに外出されたり、在宅時、長年やって来られた勉強会のメンバーの方が訪ねてこられたり、ご家族の了解の下、一緒に外出されたこともある。お寺の住職さんが会いに来られたこともある。	ほぼ連日訪問し利用者の支援をする家族や、利用者の友人、実家の墓参り、蘭展での友との交友など訪問客は多く、馴染みの関係を維持している。友人、知人の支援による外出もある。かかりつけ医や訪問美容師との間の新しい馴染みもできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼食前にリビングに集まり体操を行なっている。散歩に行こうと誘い合って施設内を歩かれる方もおられる。座っておられる方に側に行き優しい声掛けをしておられる場面も見られる。歌が始まると数人がそれに乗り歌われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了されるほとんどのの方が看取り、入院後亡くられる方が多く、ご家族様にはお手紙で介護へのねぎらいと感謝の言葉を伝えている。その後、訪ねて来て下さる方や、ボランティアとしてホームを支えて下さっている方もおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望が言える方は、ご自分の一日のペースに合わせながら、支援している。散歩等どうしても直ぐに答えられない時は待って頂いている。	フェースシートは事業所独自の書式で構成し、利用者の顔写真も貼付して、緊急時の本人確認に有力な手段となっている。追記可能で定期的に更新し、最新の情報を共有している。意思表示が困難になった利用者とは、日頃の行動を観察し汲み上げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時の勉強会の仲間や読書好き、新聞、雑誌等継続される方もあり支援している。花が好きな方は水をやって下さっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共有スペースの和室で一日寝たり起きたり、イスを転がせる事を仕事と思っておられる方等、思いのままに過ごして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングで課題を抽出している。改善項目があれば介護計画に反映している。ご家族様は気付いた事の買い物やブランケットの加工等して下さっている。病気に対する治療方針などはご家族様の意向をお聞き、話し合っている。	毎月職員間で、①満足と安心について②その人らしさについて③暮らしてみたい空間かどうかという3項目を軸に詳細な介護計画に準じてモニタリングを行い、3ヶ月毎に、状況変化のある場合は随時に介護計画を更新し、家族の同意と承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録は気付いた時点で書いているが、書くよりまず言葉で共有している事も多い。後で記録に落としたり、大切なことは連絡ノートで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に今の所ニーズは上がってきていない。必要な時は支援をしていくつもり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーに買い物に行ったり、町内会のイベントの際には、参加させて頂いている。月1回フリーマーケットを開催し、ご利用者さんも買い物を楽しまれている方もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている。ご家族のご希望により、入所前からのかかりつけ医の継続をされている方もある。	希望する利用者は、近隣のかかりつけ医を継続している。協力医療機関を主治医とする利用者は、毎月2回の定期往診を受けている。5名の看護師を職員として配置(内1名は介護職。1名は介護職を兼務している。)し、隣の小規模多機能を兼務し常勤2名の体制を整えて支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる事、気付いた事を看護職に伝え、相談、指示をもらっている。救急の受診にも結び付けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の付添い、サマリーの提供、退院時のカンファレンスへの参加等を通して情報を共有できる関係づくりが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ご家族へ終末の意向を伺っている。その都度、体調の報告をし、終末期になった場合、再度ご家族様と看取り方についてカンファレンスを実施し終末期の支援に取り組んでいる。	利用開始時に「重度化した場合における(看取り)指針」「延命措置に関する同意書」に同意・押印を交わし、医師の判断に基づく終末期には、時系列的に経過の詳細な文書記録を作り、家族の精神的ケアに配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修は2年に1回行い、今年度実施している。応急手当や初期対応の訓練は今年度は行っていない。AEDを玄関に設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害のマニュアルを作り、毎月一回、火災・地震の避難訓練を交互に行ない、年2回は水害の訓練も行なっている。11月には炊き出し訓練を行った。高槻の地震より防災頭巾を作り活用している。	敷地内に井戸を鑿泉し、停電に備えて手動ポンプを設置して緊急時にはトイレ水洗、洗濯等に中水として使用可能としている。毎月、夜間想定を含む避難訓練を実施し、反省項目は次回訓練時に改善することに努めている。消防署届け出、立会いを含む年2回の訓練には、近隣住民の参加もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんに対して、個々を尊重しながら柔らかい言葉かけや、対応が来ている。リビング内での排尿、排便の失敗にもどの職員も穏やかに対応できている。	内部研修により、利用者の人権と尊厳を尊重する介護に努めている。利用者への声かけは、利用者が“希望の持てる声かけ”“安心の持てる声かけ”を常に心がけ実践し、利用者の毎日ののんびりした生活の実現に寄与している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いをしっかりと伝えたり、自己決定出来ている方が多い。出来ない方は言葉かけによりいつの間にかその気になり、自分で動かれる。又は、動かれるまで待っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースは大切にし、介護者がペースを乱すことは無い。希望された時は希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ブラシを常にそばに置き髪を梳いたり、鏡で様子を整えておられる方など、出来る方はされている。お気に入りの服を年中着ようとされる方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りや盛り付けを出来る方は行って下さっている。片付けは手伝うわと気が向いたら、して下さっている。食事は一緒に楽しんでいる。	職員は栄養バランスの維持に必要な基本的な基準を研修して、輪番で調理を担当し、利用者の希望を取り上げながら献立や食材の購入まで行い、職員も歓談しながら共に食事している。利用者ごとに異なる刻み、とろみなどの状態に対応し、時間がかかっても全員完食している。節分には各人が自分で巻いた太巻を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事提供は食品摂取量目安に基づきおおよそのカロリーを把握しながら提供出来ている。水分量は、100cc単位を目安に提供し、おおよそ把握出来ている。個々の利用者さんの摂取量に応じて加減させて頂いている方もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている。声掛けで出来る方、誘導で出来る方、介助の方等、能力に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄値エック表で、排泄パターンに応じて誘導している。夜は紙パンツ、昼は布パンツで対応している方もおられる。	在宅中は日中独居のためオムツを使用していた利用者が、入所後排泄パターンの把握と共に適切な誘導もあって自立に準ずる排泄をしている。利用者の行動・表情を見守り、排泄誘導の声がけは利用者の尊厳を損なわないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便が滞った時、冷たい牛乳や下剤の助けを借りている。場合によりオリゴ糖も試みた。屋内を散歩し腸の運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けに拒否される場合は、中止。気が向かれるまで待っている。お風呂に入りたいと思える声掛け(一番風呂ですよ)など声掛けを行なっている。	浴室入口に暖簾を掲げ、入浴の雰囲気を作り出している。2人介助を要する利用者もあり、入浴可能な時間を午前中にも拡大して毎週2回の入浴を目指している。清拭、足浴など利用者の健康状態に合わせて清潔さを維持している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	電気をつけて寝る方が安心できる方、テレビをつけて寝る方、尿漏れが無い様シートの上から新聞を敷きつめて寝られる方、夜は起こさないでほしい方等それぞれの希望に添っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬服用時間帯ごとに1枚9名のシートを作り、薬の目的や作用等、大まかに書いており、ほとんどの職員が理解できている。変化にも気付いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書、新聞、習字、歌、元仕事の作業のつもりの方等、楽しみごとを見守っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や、知人と出かけられる事がある。月1回のフリーマーケットに出かける。個々の生活に馴染んでおられ、特に希望は聞かれない。毎月1回の外出レクは喜ばれる。今年には神戸動物王国迄バス旅行も行った。	利用者全体の高齢化や重度化に伴い外出の機会は減少しているが、見守り支援で自歩できる利用者や、車椅子を利用して季節の変わりを感じる事ができるよう配慮している。法人が所有する隣接する建物の一角にしだれ桜が植えてあり、建物を周回する散歩道を造成する計画など季節の変化を楽しめるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っておられる方が何名かおられる。時々財布の中をのぞいておられる。外出時買い物をされる方もある。お金の残金が不明の方もおられる。ご家族様は理解の上持って頂いておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は毎年書いて頂いている。手紙を書かれる方はおられない。電話を受けることはあってもかけられることは無い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビは大音量で疲れない様調整している。季節感を取り入れ、こいのぼり兜、七夕、クリスマスツリー等飾っている。利用者さんの大声での会話もあり、静かな環境とは言いがたいが、声掛けにて、環境を変えられるように努めている。	利用者の状況が一目でわかる位置に台所があり、食堂を兼ねる居間に隣接して利用者が居場所を確保して寛げる畳敷きの空間がある。幅広い階段は日頃の体力維持に活用している。壁面には“わたしがわたしらしくここでのんびりたのしくらす”という利用者の揮毫やその他の作品を飾っている。浴室、トイレは広く清潔に保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席は自らが好きな場所を選んでおられる。一人になりたい時は自室に戻られる等、ご自分でその時々を選んでおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅でこたつに入りいつも読書をされていた方はそのままの環境を再現。自宅より、使い慣れたソファを持参し座っておられる方、部屋に愛犬の写真をいっぱい貼っておられる方もおられる。	フローリングと畳敷きの居室は、エアコン、ベッド、整理筆筒を備品として準備し、利用者は使い慣れた身の回り品を持ち込んで、自分好みの居室に仕上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアの外の掲示物「ただいま帰りました」を読み、ドアを開け「ただいま」と言われる方、要所所のですり、洗面台に椅子を置き転倒されない様見守っている。畳の上に敷いたシートがめくれれない工夫もした。姿勢による目線に合わせ低い所に表示(便所等)している。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	言葉使いについて⇒外から見ると何でこんな言葉を使うと思われるかも 馴染みのコミュニケーションツールとなる時もある。基本ご利用者さんに穏やかにやさしく話しかけているが、離れていたり、危ない時の声掛けは指示口調になる時がある。	・穏やかに、包容力を持てる声掛け。	・近くに行き、目を見ながら穏やかに話しかける。 ・声掛け前に一呼吸(3秒位)おいてみる。 ・認知症の方への理解を深める(認知症研修)	3ヶ月
2	48	散歩は出来ているが、利用者さんへの係わりが薄いのではないか。 穏やかにおられるからと見過ごしがち。	・利用者さんと短時間でもとじっくり向き合える。	・隙間時間に係わる。 ・トランプ、ゲームなど利用者さん同士が係われる関係作りの働き掛け。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。